

奥会津 だより

2005年春
第29号

お手玉遊び

お母さんの手
 おばあちゃんの手
 ひいおばあちゃんの手
 その前のおばあちゃんの手
 昔のまんま お手玉はずむ
 こんどは私
 届け 届け
 ずっと未来のこどもたちまで

じめんからどっくんどっくんおとがする

佐々木理子さん（空中小）

奥会津つれづれ

「君に逢うつ以前の 僕に逢いたくて 海へのバスに揺られていたり」歌人永田和宏さんの作品でこんな歌がある。

今の自分もたしかに自分だけでなく、以前の自分とはどこが違う。どこかは分らないけれど、何か違う気がする。もしかしたら以前の自分に出逢えるような気がして、海行きのバスに乗り込んでみるというちょっとした自分探しの歌だ。

私にとっての海行きのバスは、奥会津を走る只見線だ。真っ暗なトンネルをいくつもくぐりながら、力強く走る列車にひとたび乗り込めば、幼い頃に母と毎週のように乗ったこと、高校時代には友人と話をして過ごした自分が隣に座っているようなそんな錯覚を覚えるほど、昔と変わらない空気がそこにある。

毎日机に向かって仕事をしていると、目の前のことはばかり考えて本当に大切なものが何なのか分からなくなる。大切なものが見えなくなってしまう。そんな時は、日常から少しだけ離れてみるのもいいかもしれない。

学生時代、いつもホームで見送ってくれた父のことを思い出した。学校が休みになればまた会えるというのに、寂しそうな顔で私を見送ってくれた。

「いつも心配かけてばかりでごめん。頑張るから。」

やっと言葉になったその気持ち、今さらだけと伝えたいと思う。(治)

やないづまち
柳津町
／
三島町
みしままち

柳津町から三島町にかけて、豊かな水をたたえた只見川の渓谷が貫いている。雪が降り積った山々が深青色の只見川に落ち込む様子は、巨大な水墨画のような情趣が漂う。時折、雪が舞い降り、川面には煙が立つように霧がかかる様子は今なお冬だが、渓谷を吹く風はかすかに温もりを帯び、雪解けが静かに近づいている。

一見すると今だ冬ごもりが続いているようだが、渓谷の村々では信仰の営みは絶えることなく、家々の中では冬の手仕事が行われている。

渓谷沿いには多数の寺社仏閣・野仏が点々と連なり、地域の人々の厚い信仰が伺われる。とりわけ柳津町の圓蔵寺は、只見川に大伽藍を映す渓谷随一の霊場だ。



福満虚空蔵尊圓蔵寺（柳津町）

只見川の上流から木材を組んだイカダを流していた往時、早戸集落の下を流れる只見川には難所・通称「大根おろし」と呼ばれる浅

徳一大師の開山と伝えられる堂宇は総ケヤキ造りで、太い列柱が切り立った崖際の御堂を支えている。御堂には

龍・狛犬などの微細な彫刻が施され、柱や板壁にはケヤキの年輪が美しい文様を描く。御堂からは只見川と山々を遠望することができる。

神々の道

また、三島町早戸地区の山

道「神々の道」には、すっぽりと雪をかぶった多数の石祠が、春の訪れをじっと待つかのようたたずんでいる。「金毘羅」「稲荷」「山ノ神」「風ノ神」「雷神」など、長い歴史の中で積み重ねられた信仰が今なお続いている。



観音様（三島町早戸・神々の道）

「お詫びと訂正」
前号でご紹介した昭和村権現山スキー場は、現在運営を行っておりません。訂正してお詫びします。

冬の手仕事
冬期の手仕事としては柳津町の「微細彫刻」、三島町の「マタタビ細工」などが良く知られている。

瀬の岩場があった。水運の無事を祈ったのか、「神々の道」には奥会津地域では珍しい「水神」も祭られている。



「微細彫刻」はクルミ、ギンナン、モミガラなどを厨子に、その中にわずか数ミリの菩薩像、七福神などが安置されている。彫りはルーペを使わなければはつきり分らないほど細かく、顔の穏やかな表情までが丁寧に刻み込まれる。



微細彫刻（柳津町）

また、三島町ではマタタビのほか、ヒロロ、モワダ、アケビツル、ヤマブドウツルなど多彩な自然素材を使った細工物の仕上げに余念がない。「マタタビ細工」の作業場では細く裂かれたマタタビから独特の香気が漂い、手の動きに応じて美しい幾何学模様が見える。マタタビで編まれたザルや菓子皿は、年月を経るほどに柔らかなアメ色を帯び、他の製品にはない独特の味わいが出てくる。



第5回作品 撮影者：石川多依子 撮影地：檜枝岐村



第6回作品 撮影者：増淵良雄 撮影地：昭和村

奥会津 とっておきの 風景

フォトコンテスト入賞作品より
★詳しい撮影場所は協議会のHPへ

うさぎの足跡

3月。暮らしを威圧し続けた雪の表情が日毎に変わって行く。

名残りの雪は重く湿り、黄砂を含んだ褐色の雪が季節の断層を見せている。

雪解けがはじまる寒暖の差の激しいこの時期には、日中の暖かさに解けた雪の表面が朝方の冷え込みで凍結し、雪の上を固い地面のように自由自在に歩きまわることが出来る。

朝日を受けてダイヤを撒き散らしたようにきらめく雪原はどこまでも広がり、動物たちの足跡が無数に残されているのを見ることが出来る。これはウサギの足跡だ。

ウサギは外敵を警戒して何度か同じところを走り回ってエサを食べるといふ。様々な方向に交差しているが、これも恐らく一匹のウサギの足跡だろう。テンやキツネも特徴的な足跡を残して行く。春の兆しの中で動物たちの動きも喜色に溢れているようだ。



OKUAIZU ふるさと 写真館

写真・文：竹島 善一



▲ 寺の涅槃会行事では、心身共に満たされた。人々は拾っただんごを手に戻す。これを食べればこの一年も無病息災だ。奥会津の山寺に行列ができる日。(三島町西方・昭和52年3月)

▼ 春の彼岸に合わせて寺で「だんごまき」の行事がある。これに先立ってのだんご丸めは女人衆の作業であり団樂の時でもある。一緒である喜び、奉仕の思いが女をなごませる。(三島町西方・昭和52年3月)

TOPICS

雪食地形(せつしよくちけい)

只見川に沿う国道252号線を走ってみると、山がみんな尖っているのが目に付く。それは、雪が山肌を浸食してきたもので、「雪食地形」と呼ばれている。降り積もった雪が雪崩となって山の斜面を削り取るためにできたもので、このような山は全国でも奥会津にもっとも集中している。これは、世界でも珍しい山として注目されはじめています。この春、雪食地形の山を探してみたいかがだろうか。

※アバランチ・シュートは「雪の通路」という意味で、雪食地形の一種をいう。雪食地形とは、多雪が山地に作用してつくられた地形をさす総称でその種類には、アバランチ・シュート、筋状地形、グライド地形、雪田などがある。



第5回作品 撮影者：大島市郎 撮影地：金山町



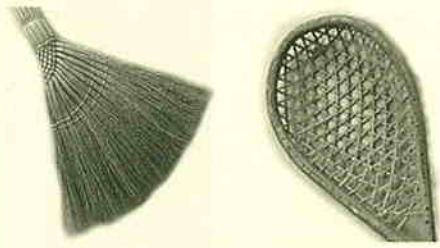
第5回作品 撮影者：石田太郎 撮影地：鏡岩村



第6回作品 撮影者：宮崎和子 撮影地：伊南村

てわざのものたち

～ 特産品紹介 ～



土間箒

最近土間も少なくなりましたが、座敷や板の間を掃くにも機能的な材質と軽さである。なにより形が美しい。編み上げられた束の根元からゆつたり広がる箒木のデザインは、気持ちの整理も促すような伝統的な姿である。1本・2,100円

またたびのスイノウ(南郷村)
蕎麦やうどんなどの麺類を茹で、掬い上げるときに使われるのがスイノウ。麺を掬うに実に適した形で、鍋の大きさに麺の量に合わせて大きさも様々だ。
奥会津では竹が少なくないので、素材には山野に自生するまたたびが用いられることが多い。
またたびを採取するのは11月の初め。生木のうちに表皮を剥いで、太さよって四つか五つに裂いて幅寄せをして揃えておく。またたび細工は採取から幅寄せまでの下準備が最も手間がかかるのだ。スイノウの柔らかな曲線が好まれるのか、花活けなど新しい使い方でも楽しむという人も増えた。1本・1,580円

お問合せ・・・きらら289 TEL 0241-711-1289



患いの

「どぶろく」

とある山あいの小さな村。毎年冬になると不思議な言葉を聞く。
「アリノタマゴ」「シロイウマ」。
人々は声をひそめてささやきあい、そつと顔を見合わせて口元をほころばせる。
「今年はすっかまく(酸っぱく) なつちやつたあ」
「オレんとはは、それほどぶろくのことだつた。昔は密造酒の取り締まりが厳しく、役人に見つかれば捕まってしまう。そこで隠語を使っていたのである。よほど親しくならないと、よそのものには供されない。その味は秘密に造られるゆえに、腹に染みわたる旨さなのだ。」

思い出を一言

昔は見つからないように山中で造ったんだよ。家中だと匂いで分かっちゃうから。寒の水で仕込んでおけば夏まで持つていくけど、持たないよなあ。旨くてすぐ飲んじゃうもの。あんまり急に沸かしすぎると酸っぱくなる。自然に発酵するのを待つと、おいしいどぶろくがでんだよ。節分の時なんか子供たちが豆拾いに来つけど、子めらが帰ったら今度は大人の節分だ。どぶろく飲むのが楽しかったよ。(匿名)

いべんざい告知板

第9回奥会津フォトコンテスト
只見線&SL写真コンテスト
入選作品展示中!

現在館岩村市民会館において、フォトコンテスト入選作品約150点の展示を行っています。
今年度は、只見線をテーマにした作品も加わり、新たな奥会津を捉えた作品も数多く展示されています。館岩村においでの際は是非お立ち寄り下さい。

期間 平成17年3月24日(木)まで(12日以外の土・日曜日は休館)

午前8時半から午後5時まで

場所 館岩村市民会館館岩村役場隣

問合せ 館岩村役場企画課まで
電話0241-78-3330

歳時記の郷・奥会津ガイドマップを発行します!

歳時記の郷・奥会津を紹介するガイドマップを現在作製中です。9町村の見どころを掲載したハンディタイプのガイドマップです。3月下旬に発行予定です。ご希望の方には送付いたしますので、お気軽にお問合せ下さい。

お問合せ先 下記事務局まで

ウォーキング大会のお知らせ

◆第5回会津高原しらかばツデーウォーク
(開催日) 平成17年5月14日(土)15日(日)

(開催地) 南会津郡館岩村

(コース) (新コース) 5km・10km・20km

(問合せ先) 会津高原しらかばツデーウォーク実行委員会 電話0241-782546

(メール) tekenkou@tatewa.org

◆尾瀬街道 妖精の里かねやまツデーウォーク
(開催日) 平成17年5月28日(土)29日(日)

(開催地) 大沼郡金山町

(コース) 1日目 20・15・8kmの3コース
2日目 18・12・6kmの3コース

(問合せ先) 金山町役場 企画情報課 電話0241-5445220

(メール) office@town.kaneyama.fukushima.jp

◆歴史と文化の柳津ウォーク
(開催日) 平成17年5月22日(日)

(開催地) 河沼郡柳津町

(コース) 10km

(問合せ先) 歴史と文化の柳津ウォーク実行委員会 電話0241-422114

(メール) yanaiizu@town.yanaiizu.fukushimajp

イベント報告

第9回奥会津フォトコンテスト及び
只見線&SL写真コンテスト表彰式を
開催しました。

平成17年2月26日(土)、館岩村の会津アストリアホテルにおいてフォトコンテストの表彰式が行われました。今年度は奥会津フォトコンテストとあわせて、只見線&SL写真コンテストでの作品応募が行われました。

奥会津フォトコンテストは個人部門で208人616名、グループ部門は24グループで192点の応募がありました。只見線&SL写真コンテストは22人、576点の応募がありました。応募して頂いた皆様、本当にありがとうございました。表彰式会場には約100名が参加し、和やかなムードで各受賞者に賞状と副賞が授与されました。また、27日から28日まで、奥会津各地の撮影ポイントをまわるツアーが行われ、昭和村や金山町で吹雪の中での撮影が行われました。参加者は寒さも忘れて真剣にシャッターを押していました。

主な受賞者は次の通りです。
◆第9回奥会津フォトコンテスト
《個人の部》

- ◎グランプリ 「出会い」清水政一様
- ◎準グランプリ 「秋たえずまい」中西美那子様
- ◎準グランプリ 「初冠雪」広野資郎様
- 《グループ部門》
- ◎グランプリ 「奥会津の詩」フォトクラブ鹿沼様
- ◎準グランプリ 「南会津の四季」良いしよクラブ様
- ◎只見線&SL写真コンテスト
- ◎グランプリ 「奥会津の小駅」藤澤孝司様
- ◎準グランプリ 「雪ん子天使」江本直尚様

入賞された皆様、本当におめでとうございませう。なお入賞された方のお名前は協議会HPに掲載されています。(どぶろく) 覧下さい。

次号より「奥会津だより」がリニューアルします!

奥会津だよりが、30号より紙面をリニューアルします。今までも更に奥会津の身近な情報をお伝えしたいと思っております。今後もお愛読よろしくお願ひします。お友達や、お近くのお店などに「奥会津だより」をどうぞご紹介下さい。

ホームページ
「歳時記の郷奥会津」
携帯電話からも
アクセスできます!

http://www.okuaizu-style.com/tdrsk/l/

QRコードご利用下さい

◆メニュー◆只電協とは? イベント、掲示板、メール

